

評価項目	今年度の取組と成果	今年度の課題と今後の改善策
地域連携 保護者連携 社会に開かれた教育課程	<p>・学校運営協議会を6回開催し、新型コロナウイルス感染状況下での学校運営や各種行事等に関する協議を行うことができた。</p> <p>・身近な地域教材をもとに地域関連学習年間計画を練り直した。また、フレンドリー農園での作物作り等、地域関連学習に関する地域の方との綿密な打合せをもった。地域担当者を中心に「地域連携推進委員会」を位置づけ、地域連携を組織的に進めた。また、Zoomを使って川崎地区コミュニティーセンター（まち協）と学校をオンラインでつなぐ授業も試みることができた。</p> <p>・地域の方との収穫体験・調理体験・収穫物の農芸祭出品（収益は社福協へ寄付）ができた。</p> <p>・月1回のまち協定例役員会に管理職や担当が参加。情報交換を密にしている。</p> <p>・かんこ踊りの取組が再開できた。（川崎ふれあい文化祭、運動会での披露等）</p> <p>・「川崎ふれあいフェスタ」を11月に3日間に分散して開催できた。児童の地域関連学習の成果物や地域や中学生の作品展示、フリー参観や体験活動（やきいも、ろうそく絵付け、福祉体験、オンライン授業等）、合唱披露等、新しい試みもできた。</p> <p>・地域や保護者の方の協力により、交通安全教室や交通安全見守り活動が展開された。3～6年で交通安全見守り隊やGTの方たちへの年賀状送付も実施。</p> <p>・共有ゾーン活用状況を把握（1月末現在124回）しつつ、地域の方との打ち合わせ、くろぼくふれあい活動団体の利用、視察団体やGT、ボランティアの控室や作業場、各種団体の会議や研修会、PTA「もらってください市」（使わない学用品等交換の場）等で活用できた。また、3月には、まち協のお雛様を飾り、子どもたちに紹介できた。特に、今年度は作業内容を明確にした新規学校ボランティアの募集を行い、一定数のボランティアの協力が得られたが、その取組が共有ゾーンの活用にもつながっている。</p> <p>・コロナ禍の中、学校情報発信と学校公開に努めた。学校だよりは26号まで発行。9月よりHPをほぼ毎日更新できた。メール配信は165回で急な保護者への連絡・情報共有で活用できた。また、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、授業参観や竹馬集会、デイキャンプ、運動会、ふれあいフェスタ等の公開ができた。</p>	<p>・今年度もコロナの影響で、年間6回のフレンドリークラブ、運動会や川崎ふれあいフェスタの土曜日開催、熟年の集い参加ができず。また、PTA総会や各種PTA会議、教育懇談会等が中止となった。</p> <p>来年度の運動会や川崎ふれあいフェスタは保護者・地域が一体となって開催できるよう、土曜日開催を目指したい。また、2年連続でできなかったフレンドリークラブ再開に向けた準備が必要で、新規クラブ開設を念頭に、募集チラシの作成・配付を行っていく。</p> <p>・ふれあい活動室等の地域や保護者による日常的な活用に向けて、ふれあい活動室等の使用状況や使用例の周知、くろぼくふれあい活動の紹介や再募集を進める。</p> <p>・地域関連学習については、今年度を振り返り、その学習の意味付けしっかりしながら計画的に進められるように、調整を行う。また、学校が子どもたちに提供・実現したい学びについての議論を深め、身近な地域教材の見直しあるいは新たな教材化により、地域関連学習として、生活・総合のみならず、教科学習の場面でもさらに地域の特色や人材を活用した教材や指導を再構築または発掘していく必要がある。</p> <p>・アンケートの際に、地域の方から「授業の様子がわからず判断しかねる」との声もいただいた。学校での授業や活動の様子が保護者はもちろん、地域の方々にも伝わるよう、学校だよりやHP更新、メール配信を活用して、保護者・地域への情報発信を積極的に行うとともに、新型コロナウイルスの今後の感染状況も見ながら学校公開の機会を確保する。</p> <p>・学年だよりが連絡事項で終わっている感が強い。また、学級だよりは一部の学級でしか発行されていない。学級だよりで、良いことも悪いことも含め学級の状況や取組、担任の教育観をもっと伝えていくべきである。</p> <p>・今後も、引き続き、対子ども保護者はもちろんのこと、対地域住民に対する丁寧な対応と信頼される関係づくりにさらに一層努めるとともに、職員間で共通理解の下、組織的に地域と関わっていく。</p>

	<p>【R3年度アンケートから】 「保護者・地域との連携、特色ある安全安心な学校づくり」 4項目肯定的回答平均 保護者 97.8% (R2 97.1%) 地域 92.3% (R2 94.7%) 「学校情報の積極的発信」肯定的回答 保護者 98.7% (R2 96.8%) 地域 92.3% (R2 94.7%)</p>	<p>・来年度緑化事業を活用して、校内の樹木等の整備を行う。</p>
<p>危機管理 保健安全</p>	<p>・避難訓練は火災・地震を想定して各1回ずつ実施。昨年度できなかった引き渡し訓練については、「大規模災害等発生時における児童引き渡し保護者用マニュアル」を作成・配布し、メール応答訓練を1回行った。1月には新型コロナウイルスによる臨時下校時にメール応答による引き渡しをスムーズに行えた。</p> <p>・児童の自転車による交通事故が3件発生したが、このことを受けて、駐在さんをはじめ、保護者や地域の方々の協力を得て、交通安全教室を実施した。(1~3年実施。4・5年は新型コロナウイルス感染防止で中止)6年生については、中学校への自転車通学を念頭に、3月実施予定。</p> <p>・保健指導は通常の指導に加え、新型コロナウイルス感染防止について、継続的な指導・取組ができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染防止において、その時々状況に応じて、県や市のガイドラインに沿って随時ルールを見直し、市教委や近隣学校との情報共有を密にしながら対応した。保護者への感染防止協力を頻繁に依頼したが、保護者の方々からの素早い対応のおかげで、学級閉鎖等を最小限にできたことや、家庭でのオンライン学習等で大変協力していただけたと感じている。</p>	<p>・「子どもの安全を守る連絡会」が実施できず。来年度再開をめざす。</p> <p>・防犯訓練(不審者対応も含む)の実施ができなかった。来年実施していく。</p> <p>・引き続き、様々な状況下で、子ども自らが危険を回避したり低減したりするための判断ができるよう各種訓練・体験を行っていく。</p>
<p>生徒指導 進路指導</p>	<p>・「子どもの理解を深める委員会」(月1回)やケース会議、教育相談、毎日の出欠状況に関する情報共有により、不登校児童や生徒指導事案、虐待事案や保護者相談、個別の支援を要する児童対応等を組織的に行った。また、Q-Uアンケート実施(6月、10月実施)、いじめアンケート実施(学期1回)、いじめ防止月間取組(4月ピンクシャツ目標づくり、11月ピンクアイテム運動)にも取り組んだ。必要に応じて外部機関(子ども支援Gや児童相談所等)との連携がとれた。(不登校児童3名。虐待事案3件)</p> <p>・川崎小 10か条を意識した生徒指導が定着しつつある。</p> <p>・望ましい生活習慣作りに向けて、保健だより、給食だより、学校だより等での啓発に加え、生活習慣チェックシートとかめやまお茶の間10選の取組を年2回実施できた。</p> <p>【R3年度アンケートから】 「自分と仲間を大切に作る心と実践力を育む教育」 4項目肯定的回答平均 保護者 90.6% (R2 93.7%) 地域 92.3% (R2 94.7%) 「学校へ行くのが楽しい」 児童肯定的評価91.3% (R2 92.7%)</p>	<p>・保護者が最も重要と思っている「きめ細やかな支援といじめのない学校づくり」において肯定的回答が80%台に下がっていることや、A評価の割合がアンケート項目の中で最も低いことを大変重く受け止める必要がある。また、これと関連して保護者から見た重要度の高い「自分と仲間を大切に作る心の育成」についても、かろうじての90%台となっている。</p> <p>・12月以降、以前のないいじめやトラブルで保護者からの相談が頻繁にある。いじめ認知として6件計上。</p> <p>・学級内でのいじめやトラブル等について、担任はもとより学年間や管理職、生徒指導担当者も含めて組織的にその詳細や経緯を確認しながら、いじめを見逃さない教職員の感覚をさらに磨かなければならない。また、指導後の継続的な見守りや見届けを確実に行うことに十分留意する。</p> <p>・個々の事案が起きた時、個別指導のみで終わらせることなく、学級全体の問題として、子どもたち自らが考え、改めるような指導を継続することで、いじめやトラブルを自らなくしていこうとする生徒</p>

	<p>・キャリア教育の一環として4年生でドリームマップ学習に取り組んだ。(延期中)</p>	<p>指導が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での日々の営みの中で、仲間づくりや友達関係の状況に注視し、担任の指導の在り方等も含めて、あらためて全教職員で、再点検し、些細なことでも見逃さぬよう、そして粘り強く継続的な指導や見守りを行う。 ・虐待や不登校といった課題への対応のため、現在の取組を継続するとともに、SCや子ども支援Gおよび鈴鹿児相との連携を密にして臨む。 ・引き続き、児童の SNSトラブル防止やタブレット使用における情報管理の強化が必要である。 ・児童アンケートでは、「同じ時刻に寝る」「TV やゲーム時間の制限」「朝ごはん」いずれも目標値を下回った。家庭での生活習慣の向上について学校だより等での啓発を継続していく。
<p>学習指導 外国語教育</p>	<p>・対話を重視した活動の展開と「深い学び」を実現する授業改善に向けて、研修会や授業公開(1人1回)を行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染防止の下で、昨年度できなかったプール水泳を実施できた。</p> <p>・外国語・外国語活動は、ベテラン英語非常勤講師からの指導援助を受け授業実践力が向上した。(スモールトーク、授業の流れ、成果検証など)特に、毎週金曜日1限目での ALT と専科教員、英語担当の打ち合わせを定例化したことの意義は大きい。</p>	<p>・「学校の授業がわかる」の肯定的評価が低下し、80%台になったこと【88.5%(R2 92.3%)】やA評価が下がっていることについて、改めて危機感を持たなくてはならない。学級や学年によって差が大きく、特に、3年生以下の子どもたちの授業理解度が下がっていること(※4~6年生では概ね 90%以上であるが、1~3 年で 60~80%台が目立つ。)に注視し、わかる授業の創造に力を入れる必要がある。また、学習面で、「自分の考えを伝えること」や「自分の意見や考えをしっかりと書くこと」についても、日常の授業を通してさらに力をつけていく必要がある。</p> <p>・「主体的で対話的、深い学び」を実現するために、「総合的な学習」「体験活動を交えた教科学習」について指導過程の充実〔自己課題設定・探求(調査体験)・評価・まとめ発信・ふり返し活動〕が引き続き必要である</p>
<p>学力向上 少人数指導</p>	<p>・4・5年生R3みえスタディチェックの正答率は、5年生の理科を除いて、県平均正答率を上回っている。</p> <p>【R3 みえスタ1回目正答率(R3.5月実施)】 5年国語 75.1%(県 60.8%) 算数 61.1%(県 57.0%) 理科 47.3%(県 50.9%) 4年国語 68.7%(県 56.8%) 算数 68.1%(県 59.0%)</p> <p>【R3 みえスタ2回目正答率(R4.1月実施)】 5年国語 78.9%(県 70.6%) 算数 48.9%(県 48.2%) 理科 54.2%(県 58.1%)</p> <p>・基礎学力の定着については、朝の学習や毎月1回の補充学習(ぐんぐんタイム)、サマースクール(低学年3回 高学年4回)、「わかるできる育成カリキュラム」「学Viva(ワークシート)」等の繰り返し練習により基礎学力の定着につなげた。</p> <p>・4,5年に加え6年生における算数習熟度別学習の効果的な実践の積み重ねができた。</p>	<p>・6年生 R3全国学力学習状況調査の平均正答率は、全国平均正答率において、算数で3.4ポイント、国語で1.2ポイント下回っている。</p> <p>【R3 全国学力学習状況調査(R3.5月実施)】 国語 63.5%(市 66.0% 県 64.1% 国 64.7%) 算数 66.8%(市 68.0% 県 69.3% 国 70.2%)</p> <p>・みえスタの結果と学力学習状況調査の結果の差から、類似問題の復習だけでは、真の子どもたちの力になっていないのではないかという点に注目していく。</p> <p>・引き続き、すべての教科学習において、「書く力・読む力・読み取る力」を高めるような授業改善や学習活動の工夫等、教師の力量アップに努めていく。</p> <p>・「話し合いなど、友達と対話しながら考えを深め</p>

	<p>・学校図書館活用アドバイザーや学校司書による指導によって、図書館の利用や図書の活用方法等を知ることができたのは、子どもの深い学びに有効であった。</p>	<p>る学習」や「めあてとふり返りの質的向上」、「深い学び」に向かう授業改善の継続が必要である。</p> <p>・補充学習(ぐんぐんタイム)の見直しが必要。</p> <p>・朝の読書の実施、「かめやま読書チャレンジ」「ファミリー読書リレー」等の取組を行ったが、年間貸出数(目標 100 冊)は伸び悩んでいる。</p> <p>【R3 年 4~2月 90.39 冊】学級によって貸出冊数に差が見られ、担任の指導によって読書数の差があることから、教員が図書館の利用方法や図書の活用方法、読書活動の充実のための研修を継続する。また、家庭学習に関しては、「家庭学習の手引き」の配付や、毎日の家庭学習時間を音読カードへ記入、自主学習ノートの掲示(自主学習プロジェクト月 1 回)等の取組を継続したが、まだまだである。家庭学習の提供の仕方について検討するとともに、引き続きテレビやゲームの時間などのルール決め等と合わせて、家庭と連携した家庭学習と読書習慣の定着を進める必要がある。</p>
<p>I C T の 活 用</p>	<p>・ロイロノートやipadの活用を目的とした研修会の実施(研修会 7 回実施)や学年に応じた SNS やネットモラル学習の実施(各学年 1~2 回実施)により、一人一台の端末の活用が進んだ。</p> <p>・新型コロナウイルス感染状況悪化が続く中、9 月にはオンライン同時配信授業を初めて実施(約 100 名)した。その後の新型コロナウイルスによる出席停止等において、端末を持ち帰ってのオンライン学習が日常的に行えている。</p> <p>・Zoom から Google Meet への切り替え指導や、ロイロノート、e ライブラリー等の活用が進んでいる。また、ふれあいフェスタでの保護者向けオンライン授業体験やまち協と学校をオンラインでつないでの授業にも取り組めた。</p>	<p>・児童も教員も引き続き端末を有効に使いこなせる力をつけていくとともに、あくまで端末は道具であるという意識で、端末を有効に活用した授業の在り方を研究する必要がある。</p> <p>・端末の破損防止も含め、端末の使用ルールの徹底を適宜行うとともに、SNS等における情報モラル指導も引き続き行っていく。</p> <p>・デジタル教科書の活用について研究を深めていく。</p>
<p>人 権 教 育 道 徳 教 育 特</p>	<p>・人権カリキュラムの見直しや新型コロナウイルス感染における差別中傷等防止に向けて「優しさいっぱい大作戦」を行った。</p> <p>・人権アンケートの実施(6月、10月)、児童会取組「人権標語づくり」(10~11月)、人権集会(1月)、子ども支援ネットワーク・アクション事業(中部中学校区)にて地域の方も参加する人権フォーラムへの参加(6年)ができた。</p> <p>・道徳・福祉体験活動、花壇づくりや合唱コンクール参加等により子どもたちの情操を育み、自己肯定感に向上につながる場面が見られた。</p> <p>【合唱への取組(5.6年有志)】</p>	<p>・引き続き、人権教育の内容で漏れがないように、カリキュラムの見直しを適宜行っていく。</p> <p>・「自分には良いところがある」で A 評価の回答が40%台に乗ってきたが、肯定的評価は80%をわずかに切り、約20%の子どもたちが、自分の良さを見い出せていないことにも注視している。教員がまずは「よいところを認める」ことにさらに留意し、友達同士の認め合いの雰囲気や学級に醸成すべきである。また、児童の自治的諸活動の場を日々の学習・生活の場に意図的定期的に設定していく必要がある。</p> <p>・合唱への取組は、コンクール参加で培った指導</p>

<p>別 支 援 教 育</p> <p>食 育 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Nコン 8/4 (銅賞) ・全日本合唱コン県大会 8/8、全国大会 11/6 (銅賞) ・川崎ふれあいフェスタでの披露 11/24 ・亀山市成人式での披露 1/9 <p>・道徳は年間計画に沿って実施。道徳教育における「川小道徳スタイル」を作成し、共通理解を図ることができた。</p> <p>・特別支援学級、通級児童、外国人児童に関する「個別の指導・支援計画」の作成は完了している。(100%) 個別の指導計画および支援計画の作成と手立ての見直し、成果の共有が図れた。</p> <p>・食育に関しては、給食指導年間計画に沿って毎月のためよりや掲示物の作成による啓発ができた。また、担任と協力して、学校栄養職員による授業実践を全ての学年で進めることができた。</p>	<p>法やその効果も鑑み、川崎小学校の一つの伝統となるよう、有志に限らず学校全体の取組として継続発展させる。そのための指導場面の確保や工夫等、計画的に取り組めるよう検討を進める。</p>
<p>総 勤 務 時 間 の 縮 減</p>	<p>・勤務時間縮減に向けて、時間外労働時間の把握や会議時間の短縮、定時退校日の月 4 回設定、会議資料のペーパーレス化に取り組んだ。</p> <p>・4～12 月の時間外労働時間は 20.3 時間 (R2 年間 23.8 時間)、月 45 時間越えは 4 月に 1 名のみ。教職員の A 評価は倍増していることから改善傾向にある。</p> <p>・年休取得は R2 年度に比べて、2 日増の 12.9 日である。(4～1 月平均合計)</p> <p>・学校ボランティアの活用については、従前からの図書館ボランティア 2 名、学校環境ボランティア 3 名に加え、新たにかんこ踊り指導ボランティア 3 名、1 学期かんこ踊り道具制作ボランティア 6 名、大学生ボランティア 2 名、2 学期かんこボランティア 5 名、調理ボランティア 2 名、裁縫学習支援ボランティア 5 名に協力いただいた。</p>	<p>・教職員アンケート項目の中で最も肯定的評価が低い(肯定的評価が 79.3%) のが「総勤務時間の縮減」である。以前に比べ教職員の適正な働き方への意識は高まっているものの、日々の業務に加えて、新型コロナウイルス関連の対応等が重なり、教職員の多忙な状況は続いているのが現状である。</p> <p>・勤務時間縮減に向けて、衛生委員会による時間外労働状況の確認と、さらに時間外労働を減らすための具体的方策を考える。</p> <p>・学校ボランティアは、教職員の負担軽減と保護者地域とのつながりの両面で意義がある。引き続きの募集を定期的に行っていく。</p>